

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校
設置者名	徳島県

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
本科 (養成課程)	農業生産技術コース	夜・通信	1900	160	
	6次産業ビジネスコース	夜・通信	1816	160	
(備考) 履修時間は2年間の合計数					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

農業大学校ホームページで公表 https://www.tonodai.ac.jp
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校
設置者名	徳島県

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会
役割	学識経験者、マスコミ、農業関係団体、生産者、消費者等の有識者により、年3回にわたり外部評価を実施し、カリキュラム編成や運営が時代のニーズをとらえているかどうか、教育内容が多様な進路に応じた人材育成ができていないかどうか、高等学校や生産者団体など各関係機関との連携は適切であるかどうか等について評価を頂き、学校運営に活かしていく。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
大学学部長	R1. 8. 1～ R4. 7. 31	学識経験者
青年農業士	R1. 8. 1～ R4. 7. 31	生産者
（備考）学識経験者、マスコミ、農業関係団体、生産者、消費者等9名の委員で構成（別添：外部評価実施要領、委員名簿参照のこと）		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校
設置者名	徳島県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>教務担当者が各講師と協議の上、講師各人が受持ち科目のシラバスを作成している。シラバスは2月下旬から3月上旬に作成し、現在は希望者には印刷物で閲覧できるようにしている。速やかにホームページにて公表すべく準備中。</p>	
授業計画書の公表方法	印刷物での閲覧
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>学則及び成績評価等に関する内規に基づき、</p> <p>①成績の評価は、試験、演習、実験、実習及び実技の修得状況並びに平素の学習態度等によって評定。</p> <p>②講義科目の評価は原則として試験により行う。100点満点のうち50点未満は不可とする。受験資格は授業時間数の10分の7以上出席しなければ与えない。</p> <p>③講義科目以外の科目(演習、実習、実験、実技)は原則として授業時間数の10分の7以上出席しなければ評価しない。</p> <p>④進級の要件は不認定の履修時間が90時間以下とし、全職員で構成する進級判定会議で決定する。</p> <p>等、あらかじめ学生に示した要件により、適正に評価を行っている。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>現在は点数評価を行っており、100点を満点とし、50点以上を合格としている。成績は90点以上を秀、80点以上を優、60点以上を良、50点以上を可と区分している。成績分布は、履修科目の成績を点数評価し、全科目の合計点の平均を算出している。成績評価の方法をホームページで公表する。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>農業大学校ホームページ</p> <p>https://www.tonodai.ac.jp</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>「卒業の要件は、所定の科目における不認定の履修時間が150時間以下。ただし、所定の時間を超えても、指定科目が認定されれば不認定時間を60時間を上限に減ずることができる。また、コース演習、コース実習、農業体験学習、卒業論文、集団活動については1科目でも不認定になれば卒業できない。」</p> <p>上記方針については、全学生が所持する「学生生活の手引き」の内規集に記載されており、全員に周知している。また、卒業認定にあたっては、全職員で構成する卒業認定会議において、個人ごとに上記方針に照らし合わせ判定を行っている。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>学生、保護者、関係機関に「学生生活の手引き」を配布</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校
設置者名	徳島県

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		本科 (養成課程)	農業生産技術コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2486 時間	826 時間	544 時間	1044 時間	0 時間	72 時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留學生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		52人の内数	0人	14人の内数	38人の内数	52人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）基本は15回（30時間）とし、内容によって8回（16時間）を組み合わせ て年間カリキュラムを組んでいる。授業は講義、演習、実習等により、シラバスに沿 って計画的に授業を進めている。
成績評価の基準・方法 （概要）講義科目は原則として試験により行う。演習、実習等講義科目以外は出席状況、 習得状況並びに平素の学習態度等によって評定する。評価は100点を満点とし、90 点以上を秀、80点以上を優、60点以上を良、50点以上を可と区分する。
卒業・進級の認定基準 （概要）進級の要件は、所定の科目の不認定時間が90時間以下とする。卒業の要件は 所定の科目の不認定時間が150時間以下とする。ただしコース演習、コース実習、農 業体験学習、卒業論文、集団活動が不認定の場合は卒業できない。
学修支援等 （概要）担任制やコースごとの担当教員を定めることにより、修学上の助言や指導を行 っている。また、新入生の全員面談により、全学生によりよい大学生活を送ってもらえ るようサポートしている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		本科	6次産業ビジネスコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2480 時間	734 時間	600 時間	1060 時間	14 時間	72 時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留學生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		52人の内数	0人	14人の内数	38人の内数	52人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）基本は15回（30時間）とし、内容によって8回（16時間）を組み合わせて年間カリキュラムを組んでいる。授業は講義、演習、実習等により、シラバスに沿って計画的に授業を進めている。

成績評価の基準・方法

（概要）講義科目は原則として試験により行う。演習、実習等講義科目以外は出席状況、習得状況並びに平素の学習態度等によって評定する。評価は100点を満点とし、90点以上を秀、80点以上を優、60点以上を良、50点以上を可と区分する。

卒業・進級の認定基準

（概要）進級の要件は、所定の科目の不認定時間が90時間以下とする。卒業の要件は所定の科目の不認定時間が150時間以下とする。ただしコース演習、コース実習、6次産業体験学習、卒業論文、集団活動が不認定の場合は卒業できない。

学修支援等

（概要）担任制やコースごとの担当教員を定めることにより、修学上の助言や指導を行っている。また、新入生の全員面談により、全学生によりよい大学生活を送ってもらえるようサポートしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	2人 (6.1%)	28人 (84.8%)	3人 (9.1%)
(主な就職、業界等) 自営就農、農業法人、農業関連企業、農業団体、公務員 等			
(就職指導内容) 特別講義の中で、ハローワーク研修（履歴書作成、面談練習等）、農業法人協会との交流会等を実施し、積極的に就職支援を行っている。			

<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>大型特殊自動車免許(農耕限定)、大型特殊自動車けん引免許(農耕限定)、家畜人工授精師、家畜商危険物取扱者、毒物劇物取扱者、農業技術検定(2級、3級)、3級造園技能士、フォークリフト運転技能資格、食の6次産業化プロデューサー(レベル2)、土壤医</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59 人	4 人	6.8 %
(中途退学の主な理由) 進路変更による		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との個別面談等を行い意思の確認を十分行っている		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
農業生産 技術コー ス	5,650 円	118,800 円	円	教科書代金 30,000 円程度
6次産業 ビジネス コース	5,650 円	118,800 円	円	教科書代金 30,000 円程度
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 農業大学校ホームページ https://www.tonodai.ac.jp		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
平成24年度より「学校評価システム」を導入し、教育活動その他の学校運営の状況について自ら評価を行っている。PDCA サイクルに基づき、年度当初に学生の学習面・生活面ならびに学校運営の実情を分析し、重点目標・課題・活動計画・評価指標を設定する。 実践段階においては、様々な評価方法を用いて、目標の進捗状況や取組の適切さを日常的にモニタリングしている。 年度末には、学生ならびに職員によるアンケートにより評価指標の達成度と活動の実施状況について総括的に評価を行い、次年度の課題へと繋げている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
農業高校 (校長)	特に定めず	教育
徳島県農業士会 (名誉指導農業士)	〃	農業
農業大学校同窓会 (会長)	〃	農業大学校OB
農業大学校後援会 (会長)	〃	在学生保護者
製菓会社 (社長)	〃	食品業界
同窓生	〃	農業大学校OB

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 農業大学校ホームページ https://tonodai.ac.jp
第三者による学校評価 (任意記載事項)
第2号の2-②に記載

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 農業大学校ホームページ https://tonodai.ac.jp
